

第4部

地域づくり計画



1 策定にあたって

全国的に人口減少社会に突入し、今後も加速度的に人口減少が続いていくと推計されています。中でも、年少人口や生産年齢人口の減少が顕著であり、日常生活における活力の停滞ばかりか、経済活動の低迷によって行政活動の財源となる税収の減少も危惧されています。

また、高齢者の増加に伴う社会保障費の増加、公共施設などのインフラが更新時期を迎えるなど、不安定な財政状況に陥ることが懸念されます。

このような中、地域社会において、現在発生している課題の解決や今後予見される不安の未然防止について、すべて行政が対応することは困難であり、地域の資源や人材を有効に活用し、地域住民が主体となって地域の暮らしを支える活動を行う取り組みを促進していく必要があります。

本市でも各地域の状況に即した課題解決を図るため、各地域に一律に支援するのではなく、地域住民の主体的な取り組みを促していくことが重要です。

地域づくり計画は、基本構想に掲げる、まちづくりの基本的視点、基本理念を踏まえ、住民主体の地域づくりへの支援と地域課題の解決に向けて、地域住民が主体となって地域づくりを進める行動計画です。

2 まちづくり宣言の策定経緯

(1) 地域づくり会議の開催

各地区の現状を踏まえた 10 年後の目指すべき将来像をまちづくり宣言として策定するとともに、地域課題の解決に向けて、地域住民が主体となって地域づくりを進める契機とすることを目的に各地区で開催しました。

◎第 1 回地域づくり会議

テーマ：地区のこれまでとこれからについて

内 容：地区の現状を実感するワークショップ（高齢者率と 18 歳未満同居世帯率の散布図を作成し、意見交換）

◎第 2 回地域づくり会議

テーマ：10 年後の将来像について

内 容：10 年後の将来像や目指す将来像に向けた取り組みを考えるワークショップ
（一部地区では、アンケート調査により意見を集約しました。）

◎第3回地域づくり会議

テーマ：まちづくり宣言の内容について

内容：これまでの検討結果を踏まえ、現在のまちづくり宣言や10年後の目指す将来像を意見交換し、新たなまちづくり宣言を策定

(2) まちづくり宣言の各地区内回覧

地域づくり会議で新たに策定した、まちづくり宣言を地区ごとに回覧するとともに、中央公民館、地区公民館、市役所に意見箱を設置し、住民から意見を受け付けました。

3 まちづくり宣言の実現に向けた支援

(1) 地域づくりを担う人材の育成

地域住民が主体となって地域づくりを推進するため、課題解決のために率先して活動できる地域づくりを担う人材の育成を図ります。

(2) 住民主体の地域づくりの促進

地域課題の解決に向けて、地域が主体となって考え、決め、実行する地域づくりを推進するための話し合いに地域づくりの専門家を派遣します。

(3) 地区計画の策定と計画実現への支援

- ・まちづくり宣言を実現するため、情報提供や相談体制の充実を図りながら、住民自らが、地域課題や地域の将来像、主な取り組みなどを明らかにする地区計画の策定を支援します。
- ・地区計画に基づき、住民が自主的・主体的に実施する活動や事業を支援するため、新たな交付金制度を創設します。

(4) 地域づくり推進体制の整備

まちづくり協議会が存在しない白石地区には、まちづくり宣言を実現するための体制づくりなどを支援します。

(5) 庁内推進体制の整備

地域コミュニティ支援や人材育成など地域づくりの推進に適した庁内組織の再編や分野横断的な連携体制の強化を図ります。

第2章 各地区のまちづくり宣言

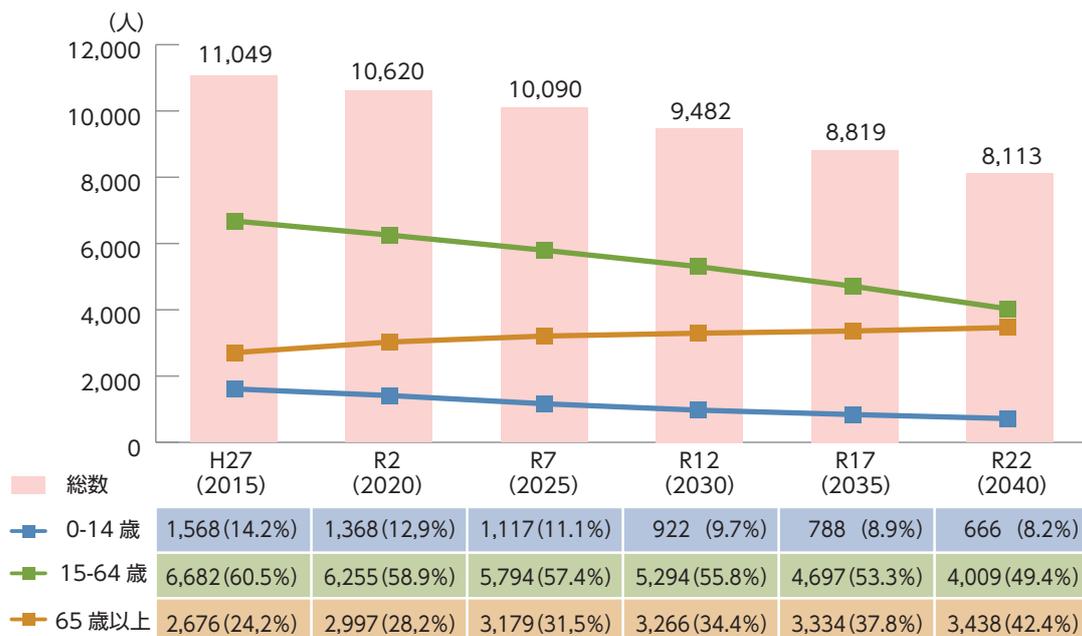
1 白石東地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和12（2030）年には9,482人まで減少し、65歳以上人口の割合（高齢化率）が34.4%になると見込まれます。



上郡山地区での植栽活動



- ・H27(2015)は、年齢不詳があるため、各区分の合計が総数と合わない。
- ・その他の年は、第2部第1章4 将来人口推計(P22)を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したもの。
- ・上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

≡ 現状と課題

- 白石東地区には新興住宅地が多く、市内でも若い家族が多く住む地区です。
- 新たに住民となる方も多く、防犯や防災の観点からも住民同士のコミュニケーションが図れるような取り組みが必要です。
- 自治会が行う地域づくりの活動を担う人材の確保が課題となっており、住民が参加しやすい環境づくりや若者の参加を広げていくことが必要です。
- 地域全体で子どもたちを育て見守る体制の整備や活動の活発化が急務となっています。

≡ まちづくり宣言

協力しあって住みよいまちにするコミュニティをつくろう！

- 1** 水害をはじめとした災害への備えを整備・充実させ、安全・安心に暮らせるまちにします。
- 2** 日常的な交流・近所づきあいがあり、お互いに支え協力しあうコミュニティのあるまちにします。
- 3** 次世代が地域活動に参画しやすい仕組みを整え、利便性が高く良好な住環境がこれからも維持されるまちにします。
- 4** 子ども・若者に地域の伝統・文化を継承する取り組みを積極的に進め、地域行事等に参加しやすいコミュニティをつくっていきます。

・白石地区の東西については、自治会を単位として、災害時に避難する指定避難所により分類（五十音順）

・白石東地区の自治会：旭町、上郡山第1、上郡山第2、郡山、寿町、寿山、鷹巣、田中、本郷第1、本郷第2、緑が丘、柳町

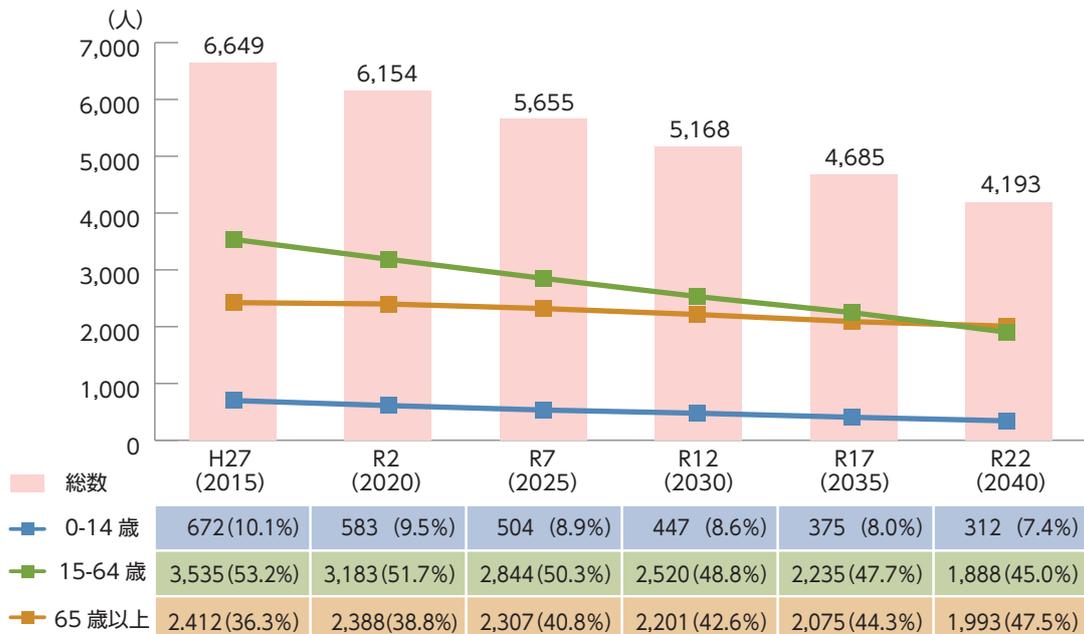
2 白石西地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和 12（2030）年には 5,168 人まで減少し、65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 42.6%になると見込まれます。



西益岡自治会の防災訓練



- ・H27(2015)は、年齢不詳があるため、各区分の合計が総数と合わない。
- ・その他の年は、第2部 第1章 4 将来人口推計 (P22)を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したもの。
- ・上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

≡ 現状と課題

- 白石西地区は市内中心部に位置し、白石城・武家屋敷や美しい水の流れる掘割など歴史と自然が調和した地区です。
- 自治会では防犯や防災、自然環境の保全、催事の開催など様々な地域づくりの活動を行っていますが、担い手となる人材の高齢化が進み、後継者の育成が課題となっています。
- 地域づくり活動へ若者の参加を促すとともに、住民同士のコミュニケーションをどのように広げていくかが課題です。

≡ まちづくり宣言

災害への備えと安心して暮らせる良好な住環境のあるまち

- 1 すべての世代が参画・協力しやすい方法で地域活動を行い、常日頃から災害への備えが整っているまちにしていきます。
- 2 生活利便性のさらなる向上を図り、安心して暮らしつづけられる良好な住環境をこれからも守っていきます。
- 3 城下町白石としての風情・伝統・文化と、きれいな水・美しい自然を守りながら、活気あふれる魅力的なまちにしていきます。

- ・ 白石地区の東西については、自治会を単位として、災害時に避難する指定避難所により分類（五十音順）
- ・ 白石西地区の自治会：小下倉、清水小路、田町、中益岡、中町、長町、新町、西益岡、東益岡、本郷第3、本郷第4、短ケ町、南町、本町、亘理町

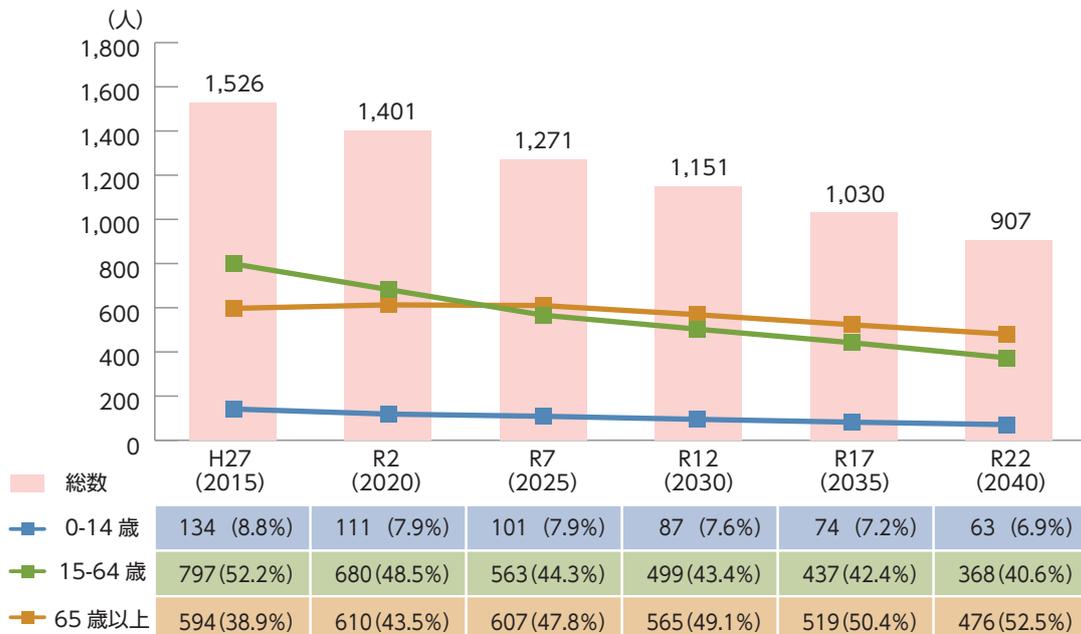
3 越河地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和 12（2030）年には 1,151 人まで減少し、65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 49.1%になると見込まれます。



令和元年敬老会



- ・H27(2015) は、年齢不詳があるため、各区分の合計が総数と合わない。
- ・その他の年は、第 2 部 第 1 章 4 将来人口推計 (P22) を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したもの。
- ・上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

≡ 現状と課題

- 若者との対話が不足しており、若者の活躍の場や居場所が不足しています。
- 地域の担い手となる人材の育成が課題となっています。
- 人手不足により、これまでの地域行事や活動の継続が困難となっています。
- 近所づきあいなどの日常的なコミュニケーションが不足しています。
- 健康を維持し、いつまでも元気でいられるための取り組みが不足しています。

≡ まちづくり宣言

「こすごう」という名の大家族、 世代を超えてつながりあうまち、越河！

- 1 世代を超えて対話する機会を積極的に設け、お互いに意見を尊重しながら、地域の担い手を育てていきます。
- 2 公民館事業の充実や小学校の活動への参加・協力などを通じて、世代を超えて交流しあえる地域にしていきます。
- 3 人と人のつながりを強め、高齢になってもいきいきと安心して生活できる環境を整えていきます。

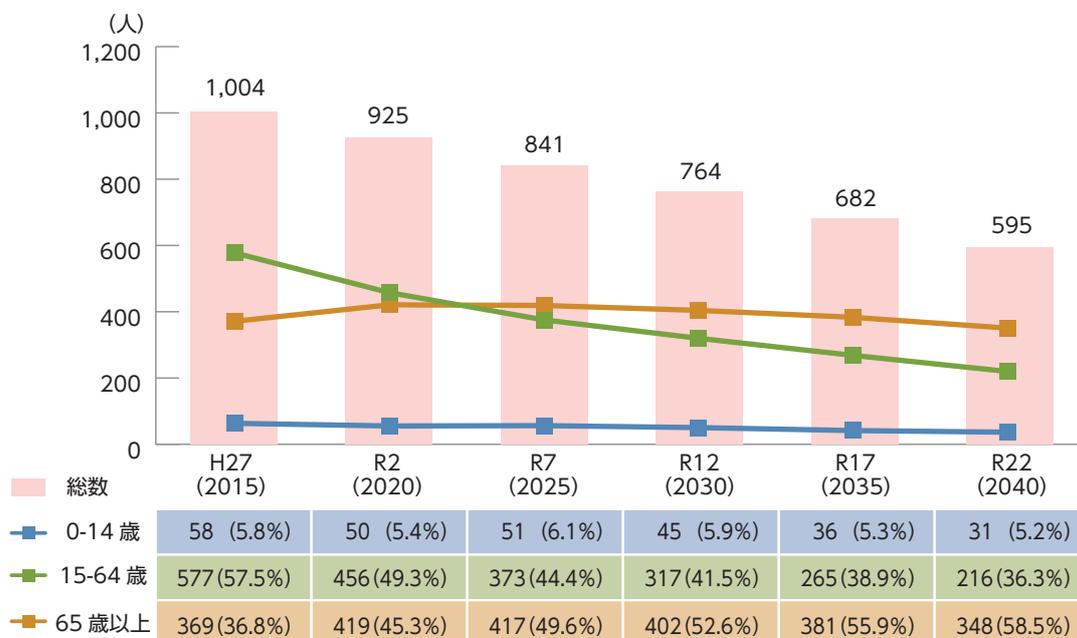
4 齋川地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和 12（2030）年には 764 人まで減少し、65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 52.6%になると見込まれます。



ころ柿づくり体験教室



- ・ R2(2020)以降は、第2部 第1章 4 将来人口推計(P22)を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したものの。
- ・ 上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

現状と課題

- 「きらり齋川笑アップ塾」を核として、中学生以上全住民アンケートの結果を基に、「誰もが安心して、暮らしやすい齋川」を目指し、対話と実証実験を進めています。
- 隣近所での支え合いが日常的にできるよう、住民同士のコミュニケーションをもっと密にしていく必要があります。
- 空き家の有効活用、農地・山林などの維持管理についての取り組みが必要です。
- 野生動物による農作物の被害は、生きがいをも失ってしまいます。行政と連携し、広域での対策が必要です。
- いつまでも健康でいきいきと自立した生活を送るための取り組みが必要です。
- 次世代へ安心して引き継ぐことができるよう、地域の仕事量を見直し、全ての世代が参画できる事業の在り方をさらに進めていく必要があります。

まちづくり宣言

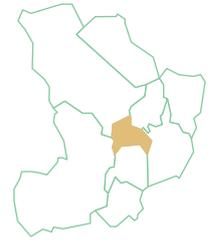
絆とつながりをさらに強め、持続可能なまち「齋川」を育む

- 1 住民同士のコミュニケーションをもっと密にし、隣近所でのささえあいと若者・中堅世代の地域参画が、日常的にある仕組みを構築していきます。
- 2 空き家や耕作放棄地の増加を抑制し、次世代が住み続けたいと思える環境を維持していきます。
- 3 農作業や趣味・小商^{こあきな}いなどで毎日が充実し、健康的に暮らし続けられる地域にしていきます。
- 4 地域のさまざまな課題に対し主体的に行動を起こせるよう、齋川公民館を核としたコーディネート機能の拡充を図ります。
- 5 「甲冑堂・桜の回廊」等の史跡やこる柿づくりなどの伝統文化を大切にし、次の世代に継承していきます。

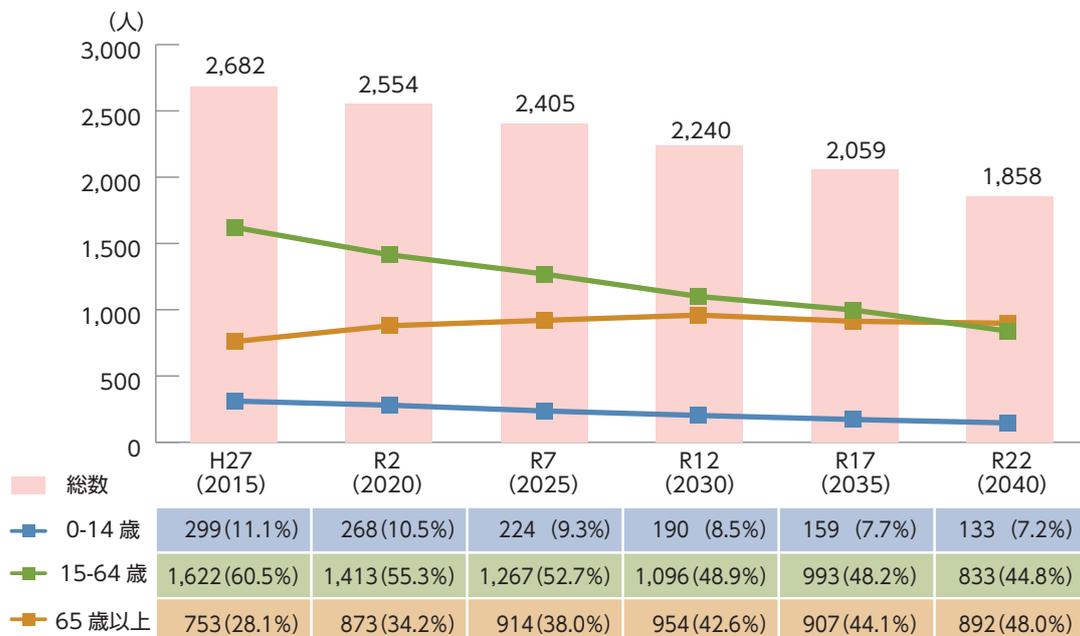
5 大平地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和 12（2030）年には 2,240 人まで減少し、65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 42.6%になると見込まれます。



地区民文化祭



- ・H27(2015)は、年齢不詳があるため、各区分の合計が総数と合わない。
- ・その他の年は、第2部 第1章 4 将来人口推計（P22）を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したもの。
- ・上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

≡ 現状と課題

- 地域の子どもが減少し、子どもとの交流・接点が不足することが懸念されます。
- 農業従事者の減少、耕作放棄地の増加、有害鳥獣被害による豊かな田園風景の維持が困難となってきています。
- 住民同士が集い、地域の将来を考え、話し合う場・機会が不足しています。
- 若者世代の地域活動などへの参画が不十分で、地域への誇り、地域づくりへの情熱が不足しています。
- 健康であり続けるための取り組みや安心して暮らせるインフラの整備が必要です。

≡ まちづくり宣言

豊かな暮らしをささえる環境とコミュニティのあるまち大平

- 1 インフラ整備が進んでいっても、豊かな田園風景を守りつづけるコミュニティをつくっていきます。
- 2 すべての世代が、地域活動に積極的に参加できる多彩な場・機会のあるまちにしていきます。
- 3 子どもたちの声・息づかいが至るところで感じられ、若者が定着するまちにしていきます。
- 4 高齢者が健康でいきいきと暮らしつづけられるまちにしていきます。

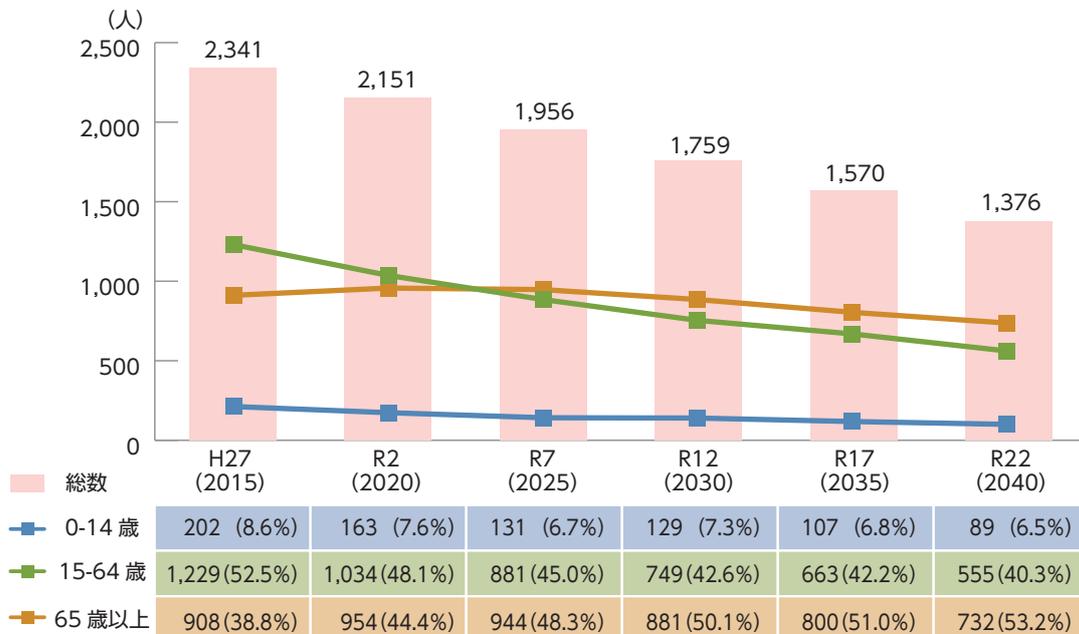
6 大鷹沢地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和 12（2030）年には 1,759 人まで減少し、65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 50.1%になると見込まれます。



大鷹沢観桜会



- ・H27(2015)は、年齢不詳があるため、各区分の合計が総数と合わない。
- ・その他の年は、第2部 第1章 4 将来人口推計 (P22)を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したもの。
- ・上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

≡ 現状と課題

- 空き家の増加、農地・山林が荒廃することが心配です。
- 子どもが減少し、保育園や小学校の存続が心配です。
- 若者がいなくなってしまうのではないかと心配です。
- 地域運営のための後継者が不足しています。

≡ まちづくり宣言

豊かな自然・歴史文化を継承し、共に支え合い、
住民が楽しく集える地域をつくります。

- 1 若者が地域で活躍できて、そして、住みたくなるような地域を目指します。
- 2 山林・農地を守り、災害に強く、助け合う地域をつくります。
- 3 地域の歴史と資産を伝え活用し、子どもから高齢者までが一緒に学び合いを進めます。
- 4 あいさつで顔が見える地域コミュニティを育み、住民同士のつながりやきずなを深めます。
- 5 大鷹沢の魅力を地区内外に積極的に発信し、地域の活性化に繋がります。

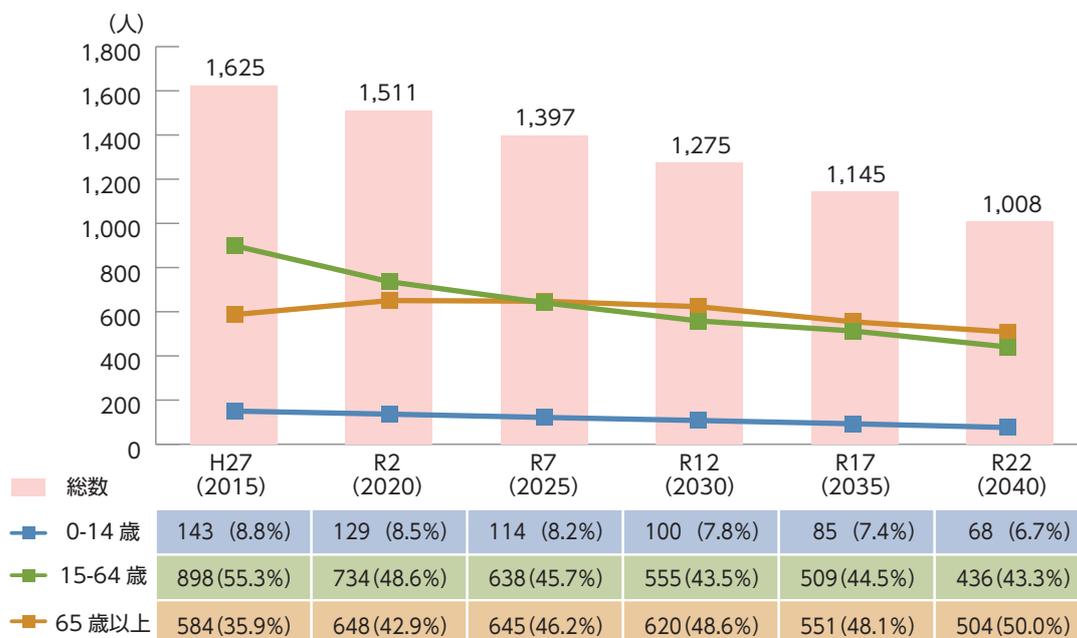
7 白川地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和 12（2030）年には 1,275 人まで減少し、65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 48.6%になると見込まれます。



仮装盆踊り大会



- ・R2(2020)以降は、第2部 第1章 4 将来人口推計(P22)を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したものの。
- ・上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

≡ 現状と課題

- 子どもが減少し、小学校が廃校になるのではないかと心配です。
- 荒地、空き家が増加し、自然災害の被害が不安です。
- 旧白川中学校の跡地利用の検討が必要です。
- 農業の担い手や家の跡継ぎが心配です。
- 認知症になるのが心配、病院までの移動に時間がかかるのが気がかりです。

≡ まちづくり宣言

安心して、笑顔あふれる白川であるために！！

- 1 世代を超えた人の交わりで安心して暮らせる白川をつくります。
- 2 高田川の清流を守り、自然豊かな白川をつくり、若い世代に伝えます。
- 3 地区のイベントを通じて、地域全体で子育てができる白川をつくります。
- 4 人と人とのつながりを深め、助け合う白川をつくります。
- 5 尊い生命の産業である米づくりを絶やさない白川をつくります。

8

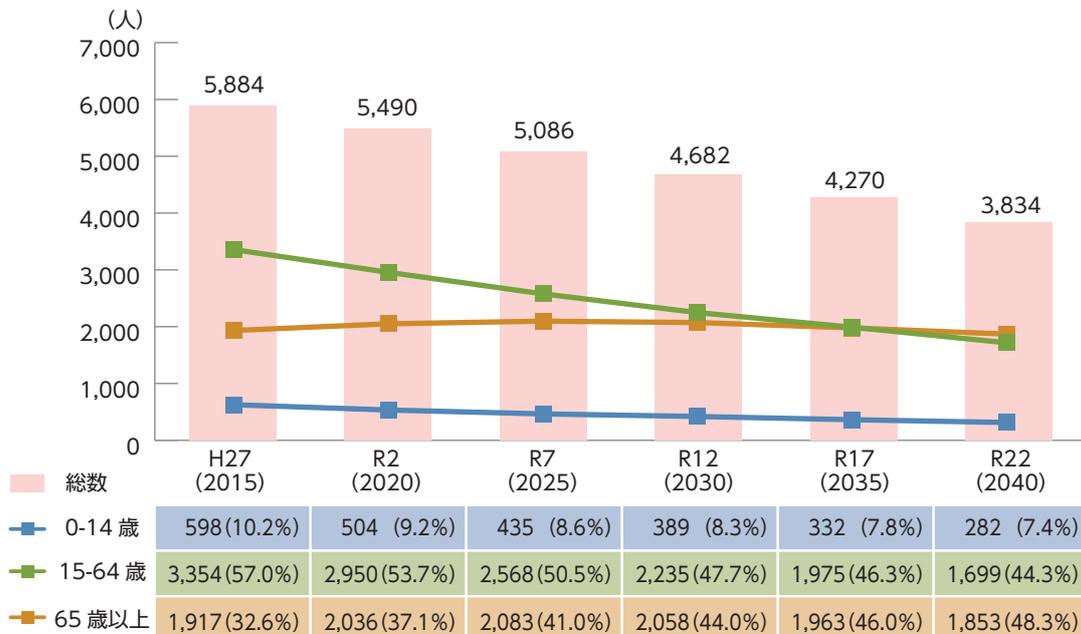
福岡地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和 12（2030）年には 4,682 人まで減少し、65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 44.0%になると見込まれます。



福岡公民館まつりで発表する空手教室サークル



- ・H27(2015) は、年齢不詳があるため、各区分の合計が総数と合わない。
- ・その他の年は、第 2 部 第 1 章 4 将来人口推計 (P22) を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したもの。
- ・上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

≡ 現状と課題

- 地域の面積が広いいため、地区としてのまとまりが希薄な面があります。
- 自治会、子ども会などの団体に加入しない地区民が増えています。
- 地域活動の担い手が不足しており、地域活動を若手・中堅世代にどのように引き継ぐことができるか課題となっています。
- 地域活動などへの参加が減少し、地域での世代間交流の機会が不足しています。
- 元気な高齢者が集う機会・場が不足しています。

≡ まちづくり宣言

つながりを大切にしたい安心・安全な地域づくり

- 1 住民同士の絆を深め、お互いに助け・ささえあいながら、安心・安全に暮らせる地域にします。
- 2 交流を積極的に進めながら、若者・中堅世代が地域活動に参画しやすい環境をつくれます。
- 3 自然や歴史などの地域の宝を大切に、各地区の特色ある活動がこれからも営まれ続ける地域にします。

9

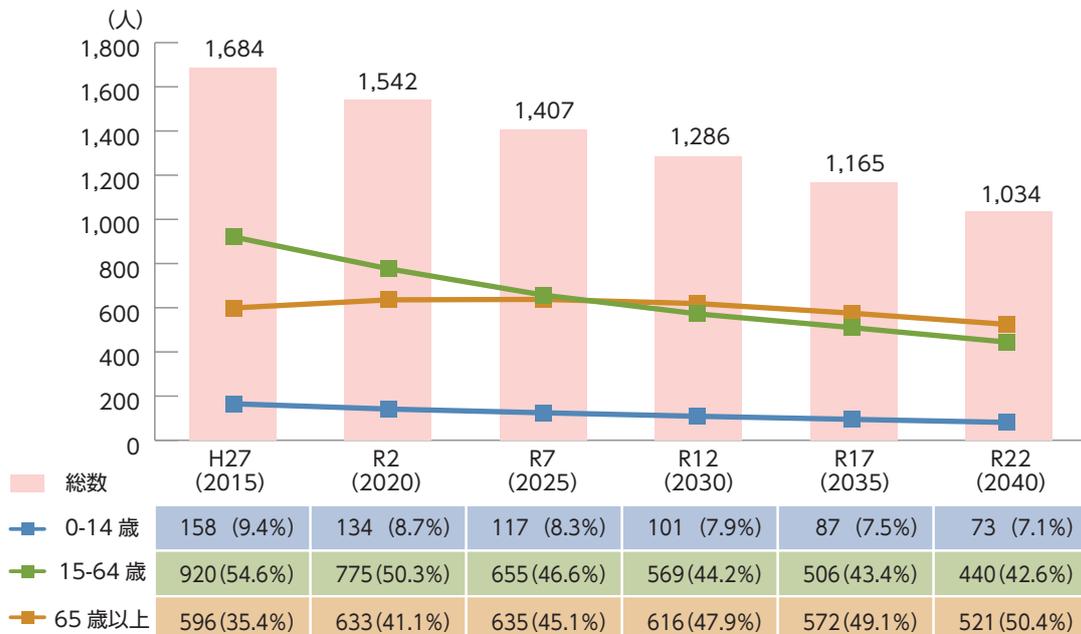
深谷地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和 12（2030）年には 1,286 人まで減少し、65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 47.9%になると見込まれます。



深谷公民館まつりで演奏する深谷和太鼓「笠松組」



- ・H27(2015) は、年齢不詳があるため、各区分の合計が総数と合わない。
- ・その他の年は、第 2 部 第 1 章 4 将来人口推計 (P22) を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したもの。
- ・上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

≡ 現状と課題

- 地域でのイベントや行事が少ないため、地区住民の交流の機会が不足しています。
- 日ごろ、若者同士の交流やつながりが希薄なため、災害への備えや災害発生時の対応が課題となっています。
- 若手・中堅世代の地域活動などへの関心が低いとともに、若手・中堅世代とのコミュニケーションが不足しています。

≡ まちづくり宣言

利便性と安全性の高い住みよいふるさと・深谷

- 1 すべての世代にとって生活の利便性と安全性が高い、住みよい地域にしていきます。
- 2 交流から世代間のつながりを生み出し、隣近所での助け合いが日常的にある地域にしていきます。
- 3 これから地域を担う人たちのための仕組みを整え、若者が地域に定着する環境のある地域にしていきます。

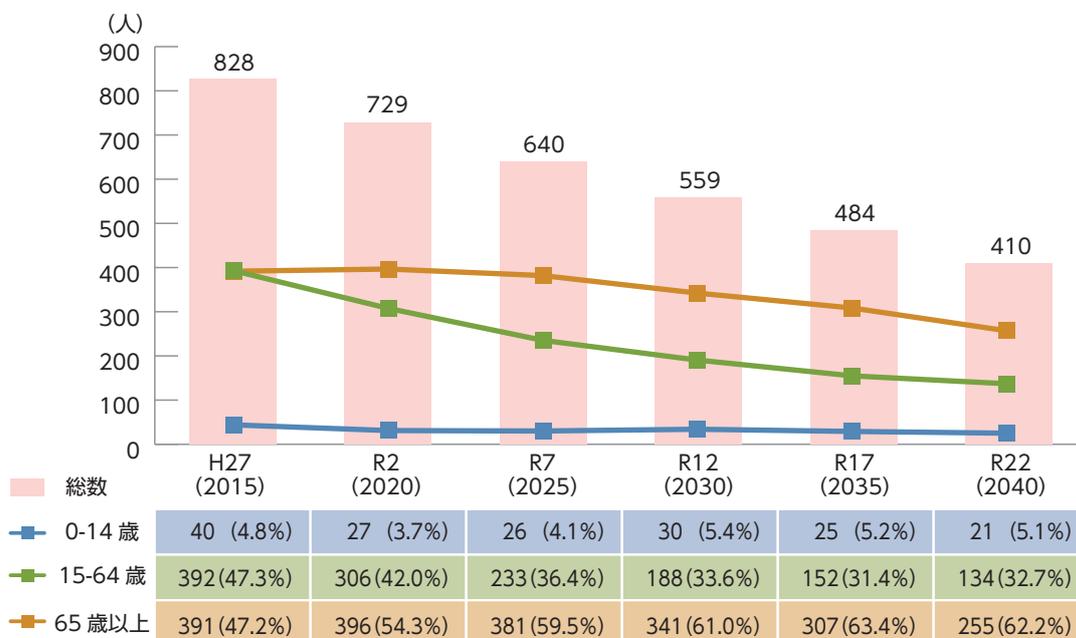
10 小原地区まちづくり宣言

人口推計

社人研の推計方法に準じた推計人口は、本計画の最終年の令和 12（2030）年には 559 人まで減少し、65 歳以上人口の割合（高齢化率）が 61.0%になると見込まれます。



春の検断屋敷まつり



- ・H27(2015)は、年齢不詳があるため、各区分の合計が総数と合わない。
- ・その他の年は、第2部 第1章 4 将来人口推計 (P22)を市全域の仮定値を使用し、地区ごとに推計したもの。
- ・上記年齢区分ごとの割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

≡ 現状と課題

- 次世代に引き継いでもらうためにも、地域内のさまざまな仕組みの抜本的な改革が必要です。改革に向けた大小さまざまな対話の場が必要です。
- 学校を核とした取り組みと気軽に集まれる場づくりが必要です。
- 日常生活を支える移動手段の確保・充実が必要です。
- 一人ひとりが健康で暮らし続けるためにも、インフラの整備が必要です。

≡ まちづくり宣言

暮らしを支える密なつながりと 持続可能な仕組みのある里づくり

- 1 次世代にしっかりとバトンを渡せるよう、持続可能な地域運営のあり方・仕組みを構築していきます。
- 2 隣近所・住民同士のつながりをもっと密にし、お互いの助け合いと交流が日常的にある、健康寿命の長い地域を目指します。
- 3 移動手段や通信環境など、日々の暮らしを支える生活インフラの整備・充実を図っていきます。
- 4 小原小中学校を核に、世代を超えた交流・活躍の場を生みだしながら、郷土愛と地域を担う人材を育てていきます。